

平成30年度淀川区区政会議 第2回コミュニティ力向上部会 議事要旨

日時：平成31年1月21日（月）18:30～20:40

場所：淀川区役所 5階 504会議室

出席者：

- ・委員6名（7名中）
西尾委員（議長）、板谷委員（副議長）、川合委員、久本委員、藤野委員、
牧委員
（欠席：浅野委員）
- ・区役所
西総務課長、久保政策企画課長、新井市民協働課長、前田保険年金課長、
辻市民協働課長代理 外

内容：

1. 開会
2. 事務局あいさつ
3. 議題
 - (1) 区政会議の運営について
 - (2) 2019年度運営方針素案からの修正について

資料：

次第、部会名簿、座席表

- ・資料1 区政会議に関するアンケート結果
- ・資料2 淀川区区政会議の運営について
- ・資料3 2019年度運営方針に関する意見への対応方針
- ・資料4 2019年度運営方針素案からの修正一覧
- ・資料5 2019年度運営方針（案）（概要版）
- ・資料6 2019年度運営方針（案）様式2
- ・資料7 淀川区2019年度（平成31年度）区長自由経費予算
要求額一覧

[その他] 「よどマガ! 1月号」、「YODO-REPO 47号」、ご意見票

1. 開会

2. 事務局あいさつ

3. 議題

(1) 区政会議の運営について

○資料1、資料2について説明

(久保政策企画課長)

意見交換

①区政会議の運営について

- ・部会は部会で存続させていけばいい。
- ・全体会議では、座り方はどうでもいいが、今回は防災をテーマにします、今回はコミュニティ力をやるので意見を持ってきてくださいみたいにし、グループ分けで座り、このグループではこんなふうな意見がでましたとかにすればいい。この部会では、長い事同じような感じでやってきたので、ちょっと変えたらどうかというのをすごく感じています。
- ・部会はこのまま続けていったほうがいいと思う。全体会議では、あの雰囲気得意な人とか、しゃべれない人とかいて、どうしても黙りがちになる。部会だと少人数で話さざるを得ないし、雰囲気にのまれる事もなく話がしやすいと思う。
- ・勉強会は受け身になると思う。今の部会だと、資料を1回読むところを5回読んで自分なりに意見を言えるように努力をしないといけないと感じている。
- ・全体会議は、全体論になり、何がテーマになるかわからない。例えば、教育のことになるかもしれない。そうなった時に、しゃべる人はしゃべるし、しゃべらない人はしゃべらない。改善しても意味がない、しない方がいいのではないかと思う。例えば、テーマをきちっと決めればいい。同じ共通のテーマを持ち、例えばこの部会のコミュニティに対しては意見が言えるけど、今日は教育、今日は防災となると、なかなか資料から読み取って意見を言うのはしんどいと思う。部会が一番いいと思う。

- 区政会議自体が、区役所が取り決めたものに対しての発表会の席になっている。区政会議に出てくる委員さんは何をするのか。区政会議という席で、区役所の方針がこういう形であり、この形でやっていきますというのを聞くための証人なのか？
- 勉強会をやるのはいい。個々の委員が勉強して、区役所の区政を勉強するのはいい事だと思う。コミュニティ力向上部会はものすごく幅が広く、コミュニティは全てにおいてかぶっているのだから、ネタはつきない。だから勉強会もやる必要は確かにあるが、会議のやり方は問題ではない。
- 今の区政会議は、地域に持って帰って報告できる会議ではない。区役所は、委員に何を求めているのか。誰でもいいから座っていただきたいという会議ではない。委員もそれなりに勉強してもらおう人に出てきてもらいましょう。
- 区役所の評価をしろというのに、その評価をするのに数字の根拠も何もない資料しか出してこない。評価をしても、それが来年度に反映されていないんじゃないか。
- 区役所としてこういうかたちで進めていくという話に委員は入っていない。出来上がったものを見せて、私たちができませんって言ったらどうするのか。区政を考えるのであれば、各地域からの委員も自分の地域も大事だが、淀川区の区政としては、こういうかたちで進めていくという事を理解してもらわないといけない。役所も、ただ頭数だけで座っている人を委員としてだされても困る、それなりに勉強してもらえよう人を出してくださいと言わないといけない。
- 会議なので議事録を残さないといけない。議事録に残すと意見を言いにくいという人がいるのも確かだが、それであれば意見を言える人を出したらいい。
- 3部会で同じように意見交換をするのであれば、その意見の中で、区役所がどうしたいという意見をまとめるよりも、委員に先に考えさせてほしい。
- 8割の方がオーケーなのに、なぜ一生懸命変えようとしてるのか。私的には十分だと思う。町会の会議とかでも、全然しゃべらないで帰る人もいらっしゃる。

- ・たくさん議題があるから、答えられないと思う。議題が1つであれば、それについて、みんな同じ話をしているので、私はあの人と一緒にですという答えでもいいですね。同じように思いますと言えらると思うんですけど、あんだけいろいろなものがあって、それで黙ってるって、それはあると思いますよ。
- ・ボリュームがあり過ぎるので、どれに答えていいのかわからない。意見は言いたいが、的をついてない意見を言うということはできないんで、黙っとこうかになってしまう。だから、全体会議で、1つだけに絞っていただいたら、いくらでも言えると思います。部会のことを2時間でやるんでしょう。できるはずないでしょう。そんなん。それを、しゃべってへんからって、それはないと思います。
- ・本当の真意がわかっていなくて、ただただ委員は、これにしとこうと○をしているだけなのに、そんなに深く掘り下げなだめなのかと思います。アンケートはあくまでアンケート、個々に聞き取り調査をした方がいいと思います。

② 3月の全体会議について

- ・ブロックごとか部会ごと。敢えて言うならば、ブロックごとがいいと思う。
- ・今まで通りがいい。
- ・今のかたちで、みなさんの顔を見ながら話すのが一番いい。
- ・フランクな感じにしてもらう事が優先。席がどうかこうとかではなくて、ベテランが横の新米さんに教えるとか。席を変えたら、緊張して余計話せないという事が起こりそうです。ロの字がいいです。
- ・ロの字で、テーマを決めてする方がいい。テーマを1個、今日はこれにすると言って話したら、いろんな意見がでると思う。部会だけだったら、同じ話ばかりになるので、煮詰まってくる。このコミュニティがテーマであれば、別の委員さんの違う意見があるかもしれない。

(2) 2019 年度運営方針素案からの修正について

○資料 3、資料 4 について説明

(久保政策企画課長)

質疑応答・意見交換

- ・淀川区 2019 年度運営方針（案）の「具体的取組 3-1-2 地域実情に応じたきめ細やかな支援」について、地域カルテの具体的な中身のイメージを教えてください。カルテにどのような基礎情報を収集して、地域の把握、課題抽出、課題に即した支援を行おうとしているのか、またカルテ作成に対して、地活協はどのようにかかわっていくのか教えてください。（板谷委員）

⇒平成 30 年 2 月の地活協会長意見交換会で地域カルテの概要を説明させて頂くとともに地域の世帯数や人口分布、高齢者世帯の割合などの統計データを記載したたたき台を会長にお示ししました。5 月の地活協会長意見交換で会長と実務担当者にそのたたき台をもとに地域の特色を記載して頂き、6、7 月開催の各ブロック会議で地域包括支援センターにも参加してもらい、地域の強み・弱みについてマッピングしながら課題抽出したものに区役所で撮影した写真も含めて作業をしているところです。

また、区社協も各地域の地域診断という同じようなデータを整理されている事がわかりましたので、区役所で作業中のものと合体し、今後、地域にお示しする予定です。

地域カルテのデータをもとにそれぞれの地域で自分の地域の理解を深めて頂き、地域実情に応じた支援が必要であれば、中間支援組織と一緒に考えていきたいと思えます。（新井市民協働課長）

- ・区で提案された地域カルテと地域と違いがあった場合は、修正できるのですか。地域のことは、一番地域の人を知っていると思うので。（牧委員）

⇒修正できます。地活協の会議の中でも共有して頂き、修正が入るようであれば、更新させていただきます。（新井市民協働課長）

地域カルテは、地域の皆さんで地域の課題や特性を共有して頂く事が主な目的で、地域の中でもアレンジして頂いたらいいと思えます。それを区役所にも共有頂き、区役所も何らかの形で支援や参考にさせて頂くと考えております。地域カルテはあくまでも地域の皆さん方の話し合いの中で決めておつくりいただくものになります。（辻市民協働課長代理）

- ・区役所で提案された地域カルテを地域で討議し、自分たちの地域がいいようになるものを完成させたらいいですね。(西尾議長)

⇒はい。地域の中でお互いにこういう課題があるというのを共有して頂く事が大事だと思います。(辻市民協働課長代理)

- ・地域で課題を抽出して、どういう支援を行ってもらいたいかを考えて、こんなことをしてほしいと言えば、区役所が支援をしてくれるという事ですか。(板谷副議長)

⇒地域のご意見を参考にこちらも協議させて頂ければと思います。まずは、皆さんで共有して頂き、活用したいと思います。(辻市民協働課長代理)

予算等は限りがございますので、できることとできないことがあると思います。(新井市民協働課長)

- ・淀川区 2019 年度運営方針（案）は、それぞれの課題ごとに支援するという施策を区がつくるという書き方になっている。いろんな課題が出てくると思うが、区役所ができることは限られている。カルテをつくってもらう事は地域を把握するうえですごく良くて、何か課題があるという事を地域が把握しておく事は大事な事。そういう意識のもとに、お願いできる場所をお願いしていく、あるいは自分達で何ができるかという事を考えていく事になる、というところで言葉としてどうなのかなと思う。(久本委員)

●市民協働課から委員の意見をお聞かせ願いたいこと

地活協が立ち上がって 5 年たちましたが、中間支援組織と一緒に新しい地域活動の創設という事で新しい連携、新しい事業が立ち上がっている地域もある一方で、今やっている事だけで担い手も手がいっぱい、財政的に

も余裕がないという地域もございます。これまで様々な団体がそれぞれの目的で事業を色々やられていますが、果たしてそれが現在の地域課題の解決につながっているか、少し何か見直してはどうかという事が皆様の地域のほうでありではないでしょうか。

2019年のことは、区役所も皆様の地域もおおよその計画は決まっていると思うので、2020年の参考にさせて頂きたいと思って委員の皆様のご意見をお聞かせください。

- ・地域には十八条東公園があり、面積が大きいから雑草がすごく、毎年苦情もあるが、これまでは公園のある町会が掃除を**実施してきた**。しかし、東三国地域の公園として地活協の中で議論して、一緒に草刈りをしようという事になり、去年は200人が参加して実行できた。地活協を活用して地域全体の課題として取り上げるというやり方で、新しい方向になった。今年も継続して実施する事が**地域の力**になると思う。地域カルテも活用して区役所にも応援してもらえれば**運営方針の重点的取組に書いてあるように**支援になると思う。(板谷副議長)
- ・地活協ができて、お金の流れが各ブロック1つになったのでいい事だと思います。以前は、重複している部分が多くありましたが、今はきれいになっています。ただ、社会福祉協議会の位置づけをどうするのが気になります。(川合委員)
- ・淀川区2019年度運営方針(案)の「具体的取組4-1-2 区政会議の効果的な運営」についての数値目標(プロセス指標)「意見に対して区役所から適切なフィードバックが行われたと感じる区政会議の割合を90%」とする目標だが、区政会議の委員から出された質問に対して答えるのだから本来100%でないといけない。(久本委員)